

## 「全鍍連」 2018年 12月号 巻頭言

全鍍連 総務委員長 東 佳範（中国電化工業(株) 取締役社長）

「ブロック会議に思う」



10月12日岡山市で中四国九州ブロック会議があった。今年は中国組合の主管で行われた。

この会議は全鍍連の資料によれば昭和44年に全国一斉に始まったらしい。当ブロックは福岡県北九州市小倉で開催されている。

以前はブロック内の6組合の輪番で開催されていたので6年に一度の開催であったが今は中国組合合併のため3組合で行っている。私が初めて参加したのは昭和60年岡山組合のブロック会議が初めてであったと思う。この時私は先代の社長より青年の主張的な発表をさせられた。翌61年は山陰組合にて行われ懇親会でのスナップ写真が残っている。一緒に写った今は亡きH社長の笑顔が忘れられない。その後数回社長のお供として参加しており、組合理事としての参加は平成3年の山陰組合の玉造温泉での会議からであった。昔は大広間であぐらをかいて飲み明かし楽しい思い出として残っている。

ブロック会議のプログラムはセレモニー、講演会、全鍍連報告、意見発表、懇親会であろう。ブロック会議の内容は各地区様々であろう。実は某専務理事（現清水専務ではない）に言わせると、わがブロックが一番きちんとやっているとのこと。それは地区報告としてテーマを決め各単組より意見発表を行っているからであろう。手元の資料では昭和51年から状況報告を行っており昭和60年の岡山大会から「自助努力と若い世代の参加で業界の活性化と地位の向上を図る」の統一テーマを決め発表を行っている。そこで私が駆り出されたのであろう。ちなみに岡山組合の発表者は若き日の難波正義さんであった。

昨年は九州組合のもと「BCP構築について、各社と組合の視点から」と言うテーマでパネルディスカッションを行った。これは熊本地震を経験し災害予防と復旧がテーマのベースとなった。今年は「ブロック会議のあり方を考える」のテーマで意見を出して頂いた。

ちなみにこんな意見が各単組より出た。

発表者の準備が大変である。懇親会だけでも良い。他地区で行っていることは参考になる情報の交換の場面で有用である等々であった。

各地区ブロック会議も様々であろうし今までの歴史もある。しかし企業も組合もブロック会議も進化していかなければ生き

残れないと思う。

せっかく参加するブロック会議は易きに流れてもらいたくないと思っている。